

# 小美玉市の歴史を知らう⑭ 縄文人のゴミ捨て場？

## 部室貝塚

みなさんは、「貝塚」と言えば、何を思い出しますか？地名ですか、それとも名字。今回は、遺跡としての「貝塚」を紹介しましょう。

まり、貝塚は、縄文時代の生活の様子を知ることができる貴重な遺跡なのです。

1877年（明治10年）、動物学者エドワード・S・モースは、横浜駅から新橋駅に向かう汽車の車窓から大森貝塚を発見しました。その後、日本で初めて発掘調査が行われたことは、中学校社会科の教科書に載っていましたので、覚えている方も多いでしょう。

そもそも貝塚とは、縄文人などが、「食料の残りがす」、例えば、貝殻、動物や魚の骨を捨てた痕跡のことを言います。捨てたものは、それだけではなく、壊れた土器や石器などの道具もあります。ところで、日本の土壌は酸性ですので、有機質のものは、バクテリアなどによって分解されてしまいます。しかし、貝殻を多く含む貝塚の土壌は、アルカリ性を保つことができます。そのため、多くの貝殻や道具がそのまま残ります。つ



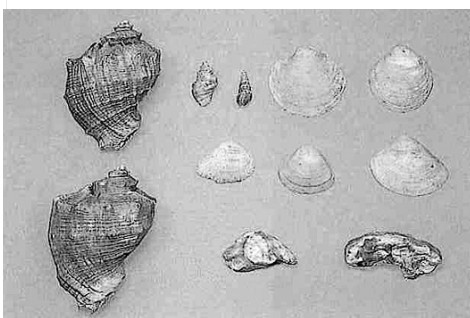
部室貝塚の貝層

霞ヶ浦沿岸には、たくさん貝塚が所在しており、小美玉市内には、七カ所の貝塚が確認されています。その中でも、霞ヶ浦沿岸（高崎地区）にある部室貝塚は、霞ヶ浦沿岸でも大規模な貝塚の一つで、二カ所の大規模な貝殻の広がり（斜面貝層）が確認されています。平成10年には、玉里村教育委員会によって、B貝層と呼ばれる地点で発掘調査が実施されました。調査の結果、約4,500〜3,500年前に貝が人工的に堆積

した痕跡（貝層）が確認されました。また、埋葬された縄文人の骨も出土しています。

縄文時代は、現在よりも気温が高く、海面が高かったようです。そのため、外海より海水が流入して、縄文時代の霞ヶ浦は、東京湾のような湾となっていました。したがって、部室貝塚で見つかる貝殻や魚骨は、海に生息しているものが大部分を占めます。例えば、貝殻であれば、ハマグリ、サルボウガイ、シオフキ、カガミガイ、マガキなどです。貝類以外にも、貝層からは、魚骨（ウナギ・ハゼ・クロダイ・スズキ・エイ）、動物の骨（シカ・イノシシ）、炭化したドングリが見つかります。

また、漁労具（ヤス・土器片・魚骨・魚鱗）、製粉具（石皿・凹石・骨鏃）、製粉具（石皿・凹石・骨鏃）など、部室貝塚から出土した貝



部室貝塚から出土した貝

敲石）などの食料を獲得および加工する道具も出土しています。ここで、出土遺物から部室貝塚の人々の生活を復元してみることになります。

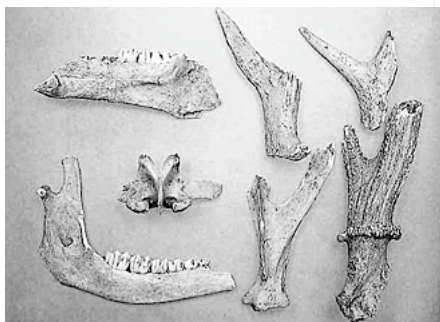
春 干満の差が大きい入り江で海に生息している貝類を採取しました。また、山野で一斉に芽を出すワラビなどを採集して、冬の時期に不足がちなビタミン類を補いました。

夏 「海の霞ヶ浦」で、ヤスや網などの漁労具を使って貴重な蛋白源である魚を捕まえました。

秋 森林で成熟した木の実（シイ・カシ・ドングリ）を大量に採集しました。そして、食料が少なくなる冬のために保存食として貯蔵しました。また、大量に採集した木の実、石皿や敲石などの製粉具で粉末にして、アク抜きを行いました。

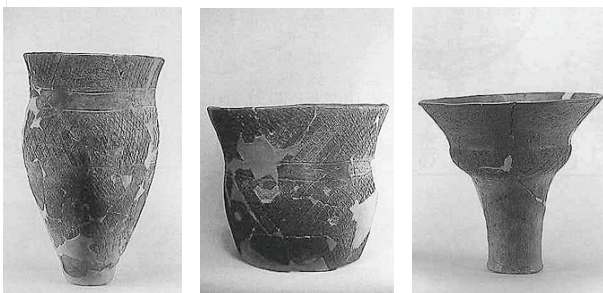
冬 イノシシやシカなどの動物は脂肪を蓄えており、弓矢や陥し穴を使って狩猟を行いました。

このように、縄文人は、四季の変化とともに食料を計画的に獲得していました。また、食料を貯蔵する術も身につけていました。食料を獲得する合間には、シカの角やイノシシの牙、貝殻を使って多種多様な道具や煮炊



部室貝塚から出土した獣骨  
（シカとイノシシ）

きをする土器がつくられました。そして、日々の生活の中で、貝殻、食べ物の残りがす、壊れた道具は、集落から少し離れた斜面に捨てられました。こうして、長い期間をかけて貝塚がつくられたのです。



部室貝塚出土土器